

健康で安心して働ける社会を

広報誌 きずな 第47号

2024年9月



特集 深谷新理事長が語るセンターのいまとこれから

深谷新理事長が語るセンターの いまとこれから

令和 6 年度公益社団法人つくば市シルバー人材センターの理事長として、新たに就任された深谷淳一理事に、センターのいまとこれからについて、お考えや抱負をおうかがいしました(聞き手：山内広報委員)。



センターのいまとこれから

— 会員数の増強が大きな課題

コロナの影響で減少した会員数が令和 6 年 6 月にはなんとか 633 人にまで回復はしましたが、現状では大きな変化がのぞめません。シルバーの PR が大切です。シルバーは剪定と草刈りしかないというのが皆さんの認識なので、知名度を上げる工夫が必要で、一例としてまつりつくばでみなさんにアピールする方法を考えています。

関連して女性会員数の増強も重要課題ですが、新理事が意欲的に取り組もうとしているので、期待しているところです。男性だからとか、女性だからとかいうのではなく、従来からの既成観念にとらわれずに、思い切った取り組み～全体的な見直し～が必要な時代にもう来ているのではないのでしょうか。

— 就業開拓の取り組みに工夫

企業回りを行って、いくつかの仕事をいただくことができました。草刈り・剪定以外の分野を伸ばすには、PR 不足が原因と思います。あるセンターでは、別のところで仕事が見つからなかった(断られた?) 高齢者に、積極的にアプローチして行って入会してもらった例とかがあるそうです。

— 令和 5 年度とは

やっと人がうごき始めたことと、財務状況がまずま

ずだったということです。この 5 年度から、センターらしい活動ができ始めるようになったという印象です。

— 令和 6 年度について

今までやってきたことを見なおし、問題があればそれを打開することです。繰り返しになりますが、鍵は、1. 人集めと、2. 就業開拓です。七十過ぎで仕事がなかなか見つからない人たちを支援できるようになればと思います。

— 課題

1. 中期事業計画の見直し。現実的にそぐわない面がいくつもあるので、全面的に見直したいのです。一例として、ICT 委員会の正式な立ち上げを推進、2. コロナ禍で中断している他センターとの交流を復活。

— 深谷新理事長のプロフィール

昭和 45 年学習院大学法学部卒。花屋を水戸、つくばなどに店、結婚式場向けに順調に売上が伸びていきましたが、東日本大震災、景気悪化などで、見切りをつけて会社をたたんだときに、縁あって、センターに入会。趣味はゴルフ。信条は既成概念を疑い、それを打ち破って道を開くこと。

センターの活動報告

(1) 令和5年度を振り返って

コロナも沈静化して、やっとシルバーの活動も正常化してきました。会員数は600人を切りそうでしたが、633人に回復しました。就業先については、つくば市内の9か所ある工業団地全法人に、小室局長の紹介で訪問し、草刈り剪定の仕事の受注等、かなりの成果がありました。総務部会では、ガーデニング、カラオケ、麻雀、健康体操などの同好会が新たに発足し、順調に活動しています。事業部会では、3チームが年間無事故で表彰されるなどして、安全対策の成果がありました。地区会、地区統括部会では、グランドゴルフ、BBQ、アダプトパークなど活発な活動が行われました。まつりつくばは、天候に恵まれ、女性活躍委員会の小物、野菜の販売は例年よりもよく売れて10万円をオーバーしました。令和5年度はつくば市シルバー人材センターの活動は、及第点以上だと思います。(深谷)

(2) 令和6年度にのぞんで

今年度は、原点に帰って会員ファースト（主権は会員に有り）の精神で活動していこうと思います。会員がシルバー人材センターを通して社会的な繋がりを持って、職場、同好会、地区会などが心の拠り所となるようなシルバー人材センターにしていきたいと思います。会員数は今年度は700人、5年後には1000人目標にして、積極的な宣伝活動や入会説明会を行いたいと思います。また、省力化、迅速化、透明化のためにICT化を推進していきたいと思います。ラインワークスによる3部会、各委員会、事務局の連絡網の確立を（理事会、総務部会は設定完了）していきたいと思います。シルバー人材センターの活動、運営については会員の皆様方のご理解と、ご協力が不可欠です。どうかよろしくお願いします。(深谷)

令和6年度定時総会

令和6年度公益社団法人つくば市シルバー人材センター定時総会が、6月20日市民ホールとよさでで開催されました。開会では、理事長小杉晴彦の挨拶につづき、来賓の五十嵐立青つくば市長および五頭泰誠つくば市議会議長からご挨拶をいただきました。令和5年度収支決算と事業報告および令和6年度の収支予算と事業計画の報告が行われ、シルバーリハビリ出前体操指導士会の特別出演もあり、総会は滞りなく終了しました。



令和6年度新体制

理事会					
理事長	深谷	淳一	新		
副理事長	張元	政治	新		
理事	寺田	佳樹	再	久保田	明 再
	酒井	清貴	再	石川	勇一 再
	北島	芳郎	新	飯田	利英 新
監事	金子	和雄	再	小杉	晴彦 新

やまびこ

今号から、書式をヨコ書き主体に変えました。現在のスマホやパソコンを必要とする生活様式では、横書きが便利なが多い。ところで独自の文字体系をもつ漢字文化圏の日本や中国では、文字の書き順が、タテ書き型では右↓左が一般的、横書きでは欧米と同じような左↓右が一般的です。日本の国字である仮名は左右のどちらから、タテ書きでも許されるという珍しい特長をもっています。

はたらく

自転車部

新メンバーにインタビュー

5月から自転車部に入会して、2か月が経過したところです。これまでは自転車の修理はパンク修理が出来るくらいでしたので、自分に自転車の修理が出来るか不安でした。2か月の研修期間に、自転車部代表の久保田会員に修理の技術を指導して頂き、自転車の整備を身に着けました。2か月の研修期間は一緒に勤務しながら、手取り足取りの指導で、基本から教えて頂きとても勉強になりました。少しでも早く自転車部の皆さんと同じように、一人前になれるように頑張っています。(青木 幹夫)



つくば市吾妻1-2-5
[南] 立体駐車場出口向かい側
☎ 090 - 7801 - 1043
営業時間 10 時～18 時

子育て支援ルームきずな

新施設長インタビュー

新しく施設長に就任いたしました、阿久津 裕子(あくつ やすこ)さんに今後の活動方針について伺いました。

安心安全をモットーに楽しいルームづくりを心がけています。

現在の預かり人数は少ないです。多くするにはどうしたら良いか検討しております。色々なところに、きずなのお知らせのチラシを配布したり告知をすることが必要だと思います。自分たちで住宅にチラシを配布したり、シルバー人材の会員の方に口コミをして頂いたりして、子育て支援ルームきずなを広めて行きます。



つくば市谷田部老人福祉センター2階
☎ 070 - 1457 - 6062

シルバー会員の活躍

民家の手入れには人手を必要とする場合がよくあります。そういうときにお役に立つのがシルバー人材センターです。令和6年5月GWの茎崎地区、民家で庭の手入れに取りかかっていた3人のベテラン会員により、あっという間に庭が見違えるほどきれいになりました。

剪定・草刈りなどのご依頼は、029-879-5199
(つくば市シルバー人材センター) まで



会員紹介

剪定大穂班 新班長に就任

会社を終えやっと自由だと1年間ブラブラしたが、女房の顔はおっかねえ。父がシルバーで剪定の仕事をしていたので自分も入会した。草刈は慣れてるけれど結構きつい。仕事を続けていく中お客さんは自分の技術力に金を出してると気づき一生懸命やるようになった。最近、班長になったがオレについてこい的な性格ではないので、みんな仲良く楽しくやっていけたらいい。こうしろなんて言えない。すべてが相談です。班長の仕事は、現場を下見し、日程を決め、要望をまとめ、段取りと、営業と職人と2つの仕事です。いろんな人と関わり合いになれる。

班員は好きな日に休んでいいんです。やりくりします。仕事の内容は情報共有し、みんなで考えてやります。刈払機や電動バリカン、チェーンソーなど道具は命の危険を伴うので、現場では大丈夫

か、無理すんなよとみんなの声がとびます。日頃の信頼が胸にしみます。

お客さんの評価が、安いからこんなものか、から、安くてもきれいに仕上げてくれた、になることが一番です。高齢の方は少ない年金で先祖代々の庭木を守っている。この庭木を守る思いにどれだけ応えられるか。応えようと思います。

剪定はいろんな人や木に出会えて楽しい。今日も仕事が終わって心地良い疲れの中、きれいにしてくれてありがとうございます、の声がします。心がほっとする瞬間です。

(川崎)



大穂チーム：左から栗原、塚本（茂）、塚本（和）、江戸、川崎の各会員

令和5年度春季剪定講習会

剪定・草刈り

一般に剪定といえばシルバー人材センターを連想させるほど、定番の作業になっています。センターでも剪定作業に従事するあるいはこれからはじめたい会員に対して、基本知識と、剪定実技や安全性などの一般的な講習を毎年実施しているのです。今年度も、令和6年3月13日～3月14日、つくば市島で松の枝の剪定講習会が行われました。昨今では少なくなった多数の松が植えられている貴重な場所での実習です。剪定部門を支えているベテラン会員のみなさん（写真①は野尻会員）が指導役として活躍している姿がありました。



①



②



③



④

リフレッシュ講習会

入会3年目と6年目の会員(66名)を対象にしたリフレッシュ講習会が本年3月11日に行われました。今回は宮澤知繁講師による「接遇・ハラスメント防止研修」がテーマです。特にハラスメント防止に関しましては我々シルバー世代にとっては、時代の差を感じさせられる講義でした。また宮澤講師は各地のシルバー人材センターとの交流も深く具体的な例もあがり、大変わかりやすい講義でした。後半の30分(最後)は参加者どうしの話し合い(講義の感想など)を行い終了いたしました。次回はもっと多くの方々の参加を希望致します。(根本)

新入会員セミナー

令和6年3月22日開催の令和5年度新入会員セミナー(第2回)には、合計16名(女性6名、男性10名)が参加しました。講師は、直近に開催のリフレッシュ講習会と同じく、経験豊富な宮澤氏です。シルバー会員が従事する仕事にはサービス業に属するものも多く、他センターの実例を参考にしつつ、厳しさを増す社会の動きを踏まえて、「接遇・ハラスメント・差別の防止」に重点をおいた研修でした。



事務局からのお知らせ

令和6年度 入会説明会・審査会予定

月 日	時 刻	場 所
10月10日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
10月18日(金)	13時30分～	《谷田部地区》 市民ホールやたべ
11月14日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
11月19日(火)	13時30分～	《荃崎地区》 荃崎交流センター
12月12日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
12月17日(火)	13時30分～	《谷田部地区》 市民ホールやたべ
1月9日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
2月13日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室
3月13日(木)	13時30分～	大穂庁舎3階 シルバー会議室

【表紙の写真】

初夏にいつも見かける野辺の花が気になっていたのです、今回アップさせてみました。

P510 オート



会員交流

寿司祭り

つくば市シルバー人材センター荃崎地区の会員交流イベント。

(日 時) 2024 年 6 月 11 日 (場 所) 荃崎老人福祉センター 趣味の部屋(厨房室)

(参加者) 19 名(桜地区 2 名、大穂地区 2 名、計 4 名含む) (指導員) 上田義信会員、元東京・日本橋寿司店・板前番頭

我々シルバー世代の子供のころは、家庭でおふくろの味として海苔巻き寿司、いなり寿司、ちらし寿司をご馳走になったものでした。最近では、フードショップで手軽に買い物できるので、家庭で作る機会はめったにありません。今回は、上田さんにご足労を戴き寿司つくりの機会を得ることが出来ました。参加者の大半が初めての経験で、個性豊かな海苔巻き、いなり寿司が出来ました。上田さんのトークも交えて、和気あいの時間を過ごして充実の交流会でした。(村野)



豊里地区の料理教室

2024 年 6 月 2 日、豊里交流センター調理室で食生活改善推進員(食改)の指導による料理教室があり、参加者は 15 名(男性 3 名)でした。推進員は「私達の健康は私達の手で」をスローガンに地域の皆さんの健康づくりのために食育活動をしているボランティアです。まずは、[た・の・し・い・よ]について、「た」大切な朝ごはん、「の」農産物の旬の食材、「し」しっかり野菜、「い」いつも感謝で頂き、「よ」よく噛んで、の解説につづいて、今日のメニューは 3 品:ゴロゴロ大豆ハンバーグ、チンゲン菜のスープ、レモンスカッシュゼリーです。

4 班に分かれての調理実習となり、各 1 名の各推進員が 4 テーブルを見て下さるのです。食材はテーブル毎(4 名～6 名分)に用意されていましたが、推進員の事前準備の大変さを実感。実習では、野菜を刻む人、野菜や調理器具を洗う人、調理器具や食器を準備する人、ハンバーグを捏ねて焼く人、盛り付ける人と分業がなされ昼食が完成し実食。ハンバーグは大豆の歯ごたえ感と大葉の香りが印象的な一品でした。各テーブルでお喋りしながらの昼食後は椅子・食器類の片づけ掃除を行い解散となりました。(山本)



歴史に学ぶ

ロシア 領土と戦争

ロシアはウクライナ侵略戦争の泥沼化で、アフガン戦争の二の舞いを踏んでしまったが、このような大国の横暴が、日本の周辺でも起きかねない。

1. 旧ソ連がアフガン侵攻戦争(1979～1989)で苦戦中、戦地から戻ってくる軍用機には多くの棺が積まれていた。戦死した兵士たちの母親の涙と怒りによる軍への反発が、アフガンからの撤退とソ連邦崩壊につながった一因ともいわれる。ロシア人は強い権力には憧れと盲従をしがちといわれるが、現政権も対応を誤ると自らの存亡に関わりかねない。
2. 1991年ウクライナは念願の独立を果たす。一方、他の旧ソ連諸国がつぎつぎとNATOに加入するなかで、ロシアはウクライナの動向に神経を尖らせていた。両国ともスラヴ系だが、長年抑圧されてきたウクライナには、ロシアに対する強烈的な反発心がある。近年、両大戦、餓死、内戦などで、数百万人もの犠牲者と国土荒廃をこうむってきたウクライナだが、生き残る道は、欧米諸国の軍事同盟であるNATO加入の実現しかない。
3. ロシアには、後押しをする「親露派勢力(ロシア語系ロシア人)」が住むウクライナ地域の併合、領土化」の野望が明らかだ。情報戦にも長けている。これはロシアの常套手段といってよい。この勢力を抑圧すれば、ロシア軍によるあらたなる介入を招きかねず、厄介な存在ではある。
4. 今回のウクライナ戦争で強い危機感を抱く国が、リトアニア、エストニア、フィンランド、ポーランド。いずれもロシア軍の圧倒的な軍事力に踏みこじられた歴史があり、次はという脅迫観念がある。因みにロシアは、一旦手にした領土や権益は、まず手放さない。
5. ロシア人とその社会を知るには、元ニューヨーク・タイムズ紙のモスクワ支局長(1971年～1973年)だったヘドリック・スミスによる『The Russians(ロシア人)』(邦訳あり、高田正純訳、時事通信社、昭和53年)が好著。同氏は1974年に国際報道でピューリッツァー賞を受賞。アメリカ人ジャーナリストとしてのスミス氏がみた旧ソ連時代のロシア人とその社会観は、いまでも大きくは変わっていないようにみえる。

(山内)

地震に備えよう

令和6年8月8日宮崎県沖のM7.1地震発生を契機に、超巨大地震の脅威が現実味をおびてきました。今年1月1日発生の能登半島地震では、インフラ・通信網などの途絶により、初動救助活動に大混乱をもたらしました。避難先でも、水、電気、トイレなどの問題が山積みで、備えと対応が後手に回っていたことは明かです。その後の復興計画でも様々な問題が報道されています。能登半島では近年、地震が多発し、注意が喚起されていたのに、なぜか。今年2月5日付読売新聞の「能登地震 検証④ 情報・道路寸断 初動阻む」では、次のように指摘しています。「備えの甘さも問われている。石川県の地域防災計画は「能登半島沖地震」が起きた場合、

被害はごく局所的で、災害度は低いと推定していた。人口2万3000人の輪島市は非常食を数千人分しか備蓄しておらず、発災初日で払底した。」茨城県も地震多発地域です。大地震では、一瞬で事が決します。日ごろから防災対策や避難の心構えが大切なのです。写真は、1995年阪神淡路大震災の三ヶ月後、神戸三ノ宮駅前に建っていたビルが被災により取り壊し中の光景です。

(筆者撮影)

